

第5号様式(第7条関係)

会議録

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 会議の名称                     | 令和5年度第2回清須市地域福祉計画策定委員会  |
| 開催日時                      | 令和5年3月21日 木曜日<br>午後2時00分から午後3時30分まで   |
| 開催場所                      | 清須市役所南館3階 大会議室  |
| 議題                        | 清須市第1次地域福祉計画策定について  |
| 会議資料                      | 資料1 第2回清須市地域福祉計画策定委員会 次第<br>資料2 清須市第1次地域福祉計画 骨子案<br>資料3 策定スケジュール  |
| 公開・非公開の別<br>(非公開の場合はその理由) | 公開  |
| 傍聴人の数<br>(公開した場合)         | 0人  |
| 出席委員                      | 川島委員、櫻井委員、時田委員、加藤恵嗣委員、<br>吉田委員、佐藤委員、吉岡委員、鈴木委員、木村委員、<br>太田委員、法月委員、安ノ井委員、武島委員、<br>岩田委員 (オブザーバー)   |
| 欠席委員                      | 加藤裕委員、児玉委員  |
| 事務局                       | 〔健康福祉部〕<br>加藤部長<br>〔健康推進課〕<br>古川課長<br>〔子育て支援課〕<br>吉野課長<br>〔高齢福祉課〕<br>寺社下課長、葛谷 (実務研修生)<br>〔社会福祉課〕<br>鈴木課長、岡田課長補佐、宮田係長、城殿主任、横井主任<br>〔社会福祉協議会〕<br>山内事務局長、鹿山総務地域課長、柴垣総務地域福祉課長<br>補佐、若尾係長、青山 (市から派遣) |
| 会議の経過                     | 1 開会<br><br>2 挨拶  |

(加藤部長)

本日の会議では、今年度実施した市民アンケート、活動者アンケート並びに地域ごとに開催したワークショップのご意見を反映した、第1次福祉計画の骨子案をご協議いただきます。事前に委員の皆さまへ郵送させていただいております。

計画策定をするにあたり大変重要な会議となりますので、忌憚のないご意見をお伺いしながら実りある会議になるよう、皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

(川島委員長)

年度末でご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。第1次地域福祉計画、清須市で初めてとなる地域福祉計画が策定され、市民アンケート、住民懇談会を実施したとご報告をいただきました。地域福祉計画というのは本当に大事な計画で、行政、福祉事業所、そして何よりも住民との協働があってこそ地域福祉計画を策定できるのだと社会福祉法にも規定されています。本日、地域住民代表、事業所、さまざまなご経験の方が集まってくださっています。骨子案についての議論、色々なご指摘をいただき、より豊かな地域福祉計画を作り上げてまいりたいと思っています。どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。

本会議は公開することを了承いただいております、第7条で会議録等の作成を定め、第8条で清須市のホームページ上で公開することとなっております。会議録の公表、正当性のために会議録署名委員を決めさせていただきます。本日の会議の会議録署名委員は、座席順に吉田正恵委員と佐藤あつ子委員にお願いしたいと思います。

### 3 議事

(川島委員長)

それでは、本日の議事に入ります。ご発言いただく際には、会議録の関係もごございますので必ず挙手をしていただき、私が指名してからマイクでお名前をおっしゃってからご発言くださいますようお願い申し上げます。

議事(1)「清須市第1次地域福祉計画 骨子案について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

【資料について説明(第1章、第2章)】

(川島委員長)

多くの情報量でページも多かったのですが、まずは質問よりも実態としてどこが気になるかをお伺いしたいと思います。清須市地域福祉計画では実態の中で取り組む課題やもっと知っておくべきこと、ポイントを定めて計画を立てていただく必要があります。全て羅列をすると何の計画かがわからないこととなります。地域福祉の中での問題点など、それぞれのお立場から見えるものは違うと思います。気になるところを色々な角度から、ご意見いただければと思います。

(安ノ井委員)

18 ページ「地区別の子ども会の会員児童数・加入率の推移」で、全体的に減少傾向にあることがグラフを見るとわかります。中でも春日地区はもともと少ないですが、令和5年度には20パーセントまで急激に下がっています。春日地区に限った何らかの要因があるのでしょうか。また、そういう状況であると児童の育成にも影響が出てくるのではないかと思います。

(事務局)

社会福祉課の鈴木です。私どもも、春日地区だけが突出して数字が少ないことを見まして驚いているところです。要因についてはまだ検証等はしていないのですが、事実を踏まえて今後の策定に取り組みたいということは考えています。

(法月委員)

災害ボランティアコーディネーターの法月です。私は春日に住んでいて、子ども会の市子連の役員をやらせていただいています。春日がなぜ急に減ってしまったかという、人口も子どもも少ない中、11地区もあり、役員をやる母親がいなかったです。5年生に上がった時に役員が回ってくるが、兄弟がいれば上の子の時にやったため下の子の時はやらないです。私も下の子の時にやると言いながら5年生になった時にやらなかったですし、4年生までは子ども会に入っているが、というような状況が私の地区では見られます。

しかし子ども会は絶対子どものためになると思う心ある人が育成会に入りまして、地区で現在3か所やっているところです。他の子ども会のないところに対して「さくら」という名前の子ども会を立ち上げています。しかしこの少しのニーズですが、頑張っているが昔ながらのシステムがあり、子どもの意見ではないと思いますが、皆さん加入してもやめてしまうような状況です。

今、おばあちゃんの世代で役員をやったりお世話ができないかというお話も出たりしているのですが、やはり新しいことに取り組むのがなかなかできない状態でモヤモヤしています。今後どう変わっていけるか、頑張りたいと思います。

(川島委員長)

地域福祉計画ではいろいろな視野の中、さまざまな地域特性を持った地区があると思います。それを全て平準化して同じようにということではなく、それぞれの地区にどのような課題があるかをしっかり掴んで、その地区ごとにどうバックアップしていくかを考えることがとても重要だと思っています。行政でもそうですが、社会福祉協議会にも春日地区の現状や、春日地区に対してどういう支援が必要かということを少しご意見いただければと思います。

(事務局)

社会福祉協議会の鹿山です。19 ページに私どもから資料提供させていただいています。ボランティアやブロック社協の小地域福祉活動を地域ごとに展開していく活動を進めています。先ほどお話がありました春日地区では、大体半分ぐらいしかまだ活動が進んでいないです。4地区あるのですが、新川地区、清洲地区はブロック社協の活動も割とやっているところが多いのです。

が、春日地区と西枇杷島地区は少ないため、今後力を入れていくということを協議会などでも話し合いを進めている状況です。

(法月委員)

良い機会なのでお話ししますと、意外と自治会とうまくやれなかったりするお母さん、役員さんがいらっしゃいます。会長さんより去年は支援にお金をいただいていたが、今年はそこまであげられない、人数はそんなに増えていないのではないかと、などといったトラブル等も地区によっては色々あるようです。お孫さんがいる会長さんの時は、頑張れと言って快くお手伝いしてくださったり顔を出してくださったり支援してくださることもありますが。なかなかそういったところもコミュニケーションを取れずに、足踏みをしてしまうようなこともありますので、もしも機会ありましたら是非子どもたちには優遇するよう伝えてほしいです。

(武島委員)

地域学校協働本部統括の武島です。子ども会について私の知るところでひとつ言わせていただきますと、清須市が成立して3町が合併した時、同等の立場でまず清須市子ども会連合会、市子連をつくるというところから市が始まりました。おそらく人口割合で役員などを決めるのではなく、その子ども会の上にさらに市子連の役員が立たなければいけないという現状が非常に足かせになっています。合併の前には市子連という活動をしておりません。町内会ごとに子ども会が紐づいていて、西枇杷島で言えばお祭りの時に町内会と子ども会が手を取り合って盛り上げます。町によってその子ども会の仕組みが違っても関わらず、清須市が合併した時に市子連という大きなものを作ってしまったので、各地区特色のあるところの手立てをするのであれば、まずそこから思い切って解体と言うか、今のお母さんたちの即した子ども会の活動をするのであれば、一旦仕組みをフラットにするということも含めて見直していただければと思います。行政というものは、例年通りあるいは継続してやるというところに視点が行きがちですが、これだけ急速な社会の変化がありますと、いちばんの社会の変化に戸惑っている若い世代を応援するという意味でも子ども会のあり方をゼロベースで見直すということをやっていくこと、子ども会の加入率の問題も含め、今回の福祉計画にもし載せることができればよいと思います。

(吉岡委員)

公募委員の吉岡です。元々、令和元年の子ども会加入率は春日地区は41.6パーセントです。西枇杷島87.9、清洲84.5、新川84.8パーセントと比較して春日地区は半分ぐらいなのですが、これは何か原因があるのですか。

(法月委員)

3地区で子ども会と、「さくら」という子ども会のできる前は11ありました。「さくら」がつくられてから3年です。令和元年時点では続々と子ども会が減りつつ、ほとんどの子どもたちが加入していないという状況です。

(吉岡委員)

春日地区は、子ども会活動は必要とされていないという理解ですか。

(法月委員)

必要だと思います。

(吉岡委員)

でも必要と思っている町民、市民は少ない。

(法月委員)

ただ、役員をやりたくないというお母さんがいるということです。

(吉岡委員)

多分それは新川地区も清洲地区も同じだと思うのです。役員はみんなやりたくないはずなので、春日地区だけやる方が少ないというのはどうもおかしい。数字的になぜかと思います。聞いても仕方がないですが。

(法月委員)

今までたくさん活動してきて、合併等もあって少し変わりつつあるところ  
です。

(吉岡委員)

合併する前から、春日は40、50パーセントぐらいの数値ですね。

(法月委員)

そうですね、数字はわかりませんが。

(吉岡委員)

となると、これは春日地区を上げなければいけないのでしょうか。それとも別に、春日地区は、地域住民の方が必要としていないのであれば、ないならなくても良いのではないのでしょうか。

(法月委員)

市子連が邪魔なのではないかという話があります。

(川島委員長)

春日地区のことをここで深掘りするということは、また別の場でやっていただければと思います。

(武島委員)

子ども会という団体のことと言わせていただくと、77パーセントの新川地区が異常と捉えていただきたいです。全国的にも、例えば隣の北名古屋市、名古屋市では20～30パーセント、もしくはもう消滅している市町もあるのです。今、67パーセントの西枇杷島地区もありますが、これは必ずどんどん減ります。ですので、子ども会は子どもたちにとっては必要だけれども、子ども会の組織は必要ではないと考えたほうが良いのかも知れないというのが私の考えです。

(吉岡委員)

市全体の地域福祉における、子どもに対する福祉活動の中でこれだけバランスが悪いのは問題なのではないかと思います。私は新川町民なので春日地区をどうするという話になるのかもしれないので、そこを深掘りするつもりはさらさらないですが、この平等性が欠けているというところに何か問題はないのかを追及したいと思います。これはもう、これ以上言っても仕方がない話かもしれないので、今後どうしていくのか、ご検討いただければと思います。

(川島委員長)

子どもたちの育つチャンス、いろいろな活動に参加する機会というものはどの地区に住んでいても子どもたちにとって大切なことだと思います。ただこの地域福祉計画、包括的支援体制ということを進めていく中で、地域づくりはひとつの柱と言われています。いろいろな福祉の活動をしていくにも地域の組織のありようはとても大事で、そこをどう支えていくかを考えていった時に、この清須の中の地域、組織、先ほど市子連の話もありましたが、この地域の組織の作り方についてこれは庁内連携という形で考えていかなければいけないことだと思います。子どもは子ども、地域福祉は地域福祉という縦割りではなく、地域の組織ということをどう考えるべきかが重要です。

(吉岡委員)

10 ページ、(7) 外国人住民に関する状況ですが、国籍等がわかれば教えていただきたいです。

12 ページ「③ひとり親世帯の推移」、なぜ減少で推移しているのでしょうか。とても素晴らしいことだと思うので、何故かお分かりになれば教えていただきたいです。

(事務局)

社会福祉課です。10 ページの外国人の国籍について、アンケートでは詳細な区分がございませんので、ここでの答えはできません。

(事務局)

子育て支援課です。ひとり親世帯の推移について、令和2年度が急激に減っていますが、正直なところ何が原因なのかはわかっていません。ひょっとしてコロナの影響もあったのかと想像はしますが、正確にはわかっておりません。

(吉岡委員)

何か素晴らしい施策をしている、などではないのですか。

(事務局)

これにつきましては個々のことがありますので、なかなか施策でひとり親世帯を減少させるというのは難しいかと思っています。特段、何か施策があったというわけではありません。

(吉岡委員)

17 ページ「(15) 地域活動等の状況」、町内会の加入率についてです。清洲地区で令和5年になると減っていますが、これは何故でしょうか。春日地区では98.0パーセントで、子ども会と全然違う数字が出ているのですが、何かあるのでしょうか。

次の子ども会も、西枇杷島地区が減っていることも知りたいと思いますが、お分かりになりますか。

(事務局)

17 ページの町内会の加入率について理由についてはわかりませんが、色々な方の話を聞く上でやはり清洲地区は加入率が減少しているとは聞いています。

地域づくりとして社会福祉課でいろいろな事業を進めているのですけれど、その中で個別避難計画がありまして、町内会に入っていない方について

の支援をどうするかという話が出ています。これを機に町内会の必要性を市民に理解していただいて、入っていただけるような地域づくりをしていけたらと考えています。

(吉岡委員)

新しい住民の方が増えてきているなどはあるのですか。

(事務局)

整備もやっておりますが、比較的新しい家が建てられていますが、そこには実際に市外の方が入ってきているのか、分家で市内に住んでいるところまではわかりません。

(吉岡委員)

子ども会も、新しい住宅が増えているからなのかと思ったのですが。

(武島委員)

西枇杷島地区の場合は、他の子ども会もそうかもしれませんが、町内にひとつずつ子ども会がありますので、ブロックではなくて小さい町内会がたくさんあります。その中で、小さい町内会が少子高齢化で子どもがいなくなり、子ども会自体が登録できなくて、子ども会をそのまま消滅するところがあります。少し前でしたら小さいとこと小さいところがくっついてひとつの子ども会を存続させようという動きがあったのですが、今はもうその役員が出ない、低学年の子どもがいなくてもう春日地区と同様にもうやめようという動きが主流になっています。

また、子どもたちの集団登校に昔は子ども会が紐づいていて、その見守りも子ども会が担うことが西枇杷島地区にもあったのですが、5年ぐらい前から、子ども会とは分離した、地図でいうご近所が集まって集団登校を決めるということになってきました。保護者としても子ども会に入る必要がないということで、出ていくのであろうと思っています。

(吉岡委員)

26 ページ「団体ヒアリング調査」で、調査の配布・回収数が7ですが、これは少ないのではないですか。

(事務局)

社会福祉課です。団体配布数は7ですが、実際にその地域で活動している団体にお願いしています。災害ボランティアコーディネーター、あいち健康づくりリーダー、清須市中心身障害者福祉協会、清須市地域学校協働本部など、地域で活躍していただいている実態に沿った方々を選んでいると考えています。

(川島委員長)

その他、このアンケート結果あるいは地域懇談会などで意見はありますか。地域懇談会に参加いただいた、櫻井副委員長から、よろしければお話をお聞かせください。

(櫻井副委員長)

地域の懇談会、ワークショップで皆様のご意見を聞く機会があつてとても良かったと思えました。普段の活動の上でそれぞれが思っていること、外国人やひとり暮らしの方にご関心があるか、ワークショップでは皆さん

のご意見がとても出ました。生の声、ただ困っているではなくこうしたらいいとかの意見がありました。私自身の意見としては、ひとり暮らしの高齢者だけではなく、お二人で住んでいらっしゃるほうが困っていることが多い。ひとり暮らしは見守りをしていますが、声が上がってこないものですから、本当に大変だというご意見が多かったので、そういったことを聞けたというのが良かったです。

(川島委員長)

櫻井副委員長が言われたように、生の声を聞くというのは本当に大きなことです。ひとり暮らしの高齢者は民生委員の見守り活動の対象に入っていますが、漏れ落ちている、でも実は困っていらっしゃるという方にどうやって支援が届くようになるかということも、包括的相談支援の中でひとつ大きな重要な柱になっています。アンケートや、ありのままの声を聞くヒアリング、懇談会の中で、実は困っている人がいること、地域の中でしっかり声をキャッチしていくことをどう仕組みとして作っていくかということが、この地域福祉計画の中でしっかりと位置づけられるということはとても大切なことです。

地域の活動としてどうしても高齢者向けの活動がメインにあるようですが、そうではなく、先ほど子ども会の話も出ましたが子どもはどうなのだろう、障害のある方はどうなっているか、生活困窮者でも実は保護が出せなくて困っている方がいないだろうか、地域の見守りや地域の絆の中で、その方たちがきちんと繋がっていくという、ここをしっかりと大事にしていければと思います。

質問ですが、21 ページ「地域活動への参加意向」で、「条件によっては参加しても良い」という割合は他市と比べてとても可能性のあるところだと思っています。大事なのはこの「条件」なのですが、何があれば参加していただけのかがつかめなければ、活動者の参画を促すことができないということになります。条件の詳細をアンケート項目に設定されていなかったと思うのですが、この条件について例えば思い当たるようなことがもしあればいかがでしょうか。

(事務局)

想像の域を出ませんが、ボランティア関係でアンケートをやったりする時に、時間の都合が合えば参加しますというような回答などをよくいただいたりすることがありますので、日にちや時間といったことかと思っています。

(事務局)

社会福祉課です。アルバイト的な感覚で考えられてるのではと思います。有償のボランティアということもあるのではと考えます。他にもあるかもしれないですが、地域のニーズも把握させていただくことで社協さんとも連携しながら、ニーズは拾っていきたいと思っています。

(法月委員)

我々は災害ボランティアコーディネーターですが、防災訓練の際に愛知医療短大、新川高校にお願いにいきました。たくさんの学生さん、生徒さんに来ていただけて、すごい勉強になった、知らないことばかりだと意気揚々と



お帰りいただきました。今、学校の内申書でもボランティアは飛び交っている言葉で、いい気持ちになるし、自分のためというのもあるとは思いますが。少なからず、今災害が多く起こっていますので、災害を知りたい方や子どもたちが来てくれていると思いますが、家庭内ではなく学校を通してやった方が、子どもは自信を持って行けるのではと思います。

春日町で中学生に避難所運営の訓練をする際、何か活躍してもらえないかというお話をすると、今から食事の配給をしますと放送を入れてくれたり、細かいことを頼むだけでちゃんとできて、今の子どもはしっかりしています。どんどん機会をつくり、子どもたちを参加させていただけたらいいと思います。

(鈴木委員)

例えば直接行ってお話をしてこういう役目をやってくださいとお願いしたと言われていましたが、これが、条件が当てはまったということかと思いました。

23 ページ「支え合う地域づくりを進めるために必要があると思う行政の支援」で、「情報提供、情報発信を充実させる」ということが届いたと思うのです。普段こういう活動をされてマッチングしたり、情報発信がうまくいっていない、けどその災害の方はうまくいったというのはそのひとつの成功例だと思うので、他の地域ではあまり防災のことやってないので、それを直接お話ししたりとか、子どもたちに手伝ってもらうことができたなら、多分情報はちゃんといったということだと思います。他の地域でもうまくいくと思う。情報発信を充実させるが36パーセントで、本当に情報が欲しいという意見なのだと思うので具体的にあった方がいいとか、そういう熱意を伝えるのはこの方法がいいと思いました。

(川島委員長)

地域福祉計画というのは理念計画ではなく、地域福祉を具体的に推進していかなければいけない、そのために計画的に5年間かけて進めていく実施計画です。ですから地域福祉計画にはきちんと評価をするということも社会福祉法に織り込まれています。

活動者数が少ないと言われるのであればどう増やしていくか。具体的に手立てを打って実際に5年後、今までこの活動者数だったがこの活動でこれだけ増えたということ、地域福祉計画として進めていきたいのです。

本日、このアンケート結果を皆さんに読み込んでいただいてどこがポイントか教えていただきたいと申し上げました。知りたいけれど情報がないというアンケート結果があって、地域福祉計画の中で活動者が少ないという意見があって、では活動者を増やすためにどんな手立てが必要なのかを想像の範囲ではなく、色々な調査結果や地域市民の声、例えば学校のプログラムに入っていたら参加できる、情報がこれだけあれば、この時間帯であれば参加できるなどと具体的に掴んでやってみて、増えるか減少するかということ、ぜひこの5年間でやっていただければと思います。

このアンケートの結果はとても大事なひとつの大きなデータです。アンケートの条件によって、その条件とは一体なんだろうというところもぜひこれからも把握しながら、具体的に進めて行けたらと思います。

(鈴木委員)

26 ページ、今後の福祉施策に求めるものについてですが、アンケートをした方は 18 歳以上、割と大人だと思いますが、例えばご家族に何かがあっても子どもが情報収集したい時、子どもが見てもわかるような情報の発信の仕方があると思います。今の小学生はスマホも自在に使えて私より上手に検索できますし、子どもたちでもわかる情報発信で、救える人がまた増えるかもしれないと思いました。

同じ 26 ページ「地域福祉活動の住民参加・交流に関すること」で、一般の生涯学習などに「もっと積極的に参加してほしい」のはそう思いますが、その後の「障害があっても出られる」という言い方がとても嫌です。講演会などをよく企画したりするのですけれども、障がいを持っている方に来ていただくために、車いすにはスロープが必要ですし、介助者が必要だったり、途中でトイレに行きたい時にきちんと案内ができるか、座席をちゃんと確保できるか、とてもいろいろなことを想定しながら企画します。簡単に来いといってくるものではなく、出やすい時間や、天気など想定し、人数の配置を考えたり、そこに携わるボランティアや関係者が何人も必要になりますが、後から来て良かったと言ってもらえると、また企画するからとお話しすることもあります。ぜひいろいろなところに出てきてほしいし、それでまた気づくことがあればいいとも思います。障がいがあっても出られるではなく、こちらがきちんと寄り添ってできればと思いました。

(川島委員長)

いろいろな条件があってもいろいろな困りごとがあっても、参加の機会を創出していくことは大事なことと思っています。そういうところも踏まえながらどう推進していくかということも計画の中に書き込んでいただければと思います。

他に意見、質問はありませんか。それでは事務局より、続いて説明をお願いします。

(事務局)

【資料について説明 (第 3 章)】

(川島委員長)

基本理念の三つの案が出ていますが、似ているようでニュアンスが少し違います。事務局も色々な思いを持って三案に絞っていただいています。多数決ではありませんので、どれが良いかご意見をいただきたいと思います。

(鈴木委員)

案 2 が良いと思います。「安心して」がとてもしっくりきました。一人一人がというよりは「いきいきと」、全体が良い感じに聞こえます。

(吉岡委員)

案 3 が良いと思います。キャッチフレーズは短い方がよいと思いますので、いちばん短いものを選びました。

(佐藤委員)

案2が良いと思います。「安心して」「いきいきと」暮らせるというのは、私たち高齢者にはいいと思いました。

(吉田委員)

案2が良いと思います。2と3で迷っていましたが、「支える」はとても言葉として大事だと思いますが、「安心して」「いきいきと」というところが響いています。

(加藤恵嗣委員)

案3が良いと思います。私も2と3で悩んでいますが、「一人一人が輝く」で案3を選びました。

(時田委員)

案2が良いと思います。案1についても「はぐくむ」という言葉があるのが珍しいですが、全てのものが生まれる「はぐくむ」が好きだなと思って2にしました。

(櫻井副委員長)

案2が良いと思います。「安心して」というのは、常日頃ブロック社協などで色々やっていますが、その時に皆さんは何をしても私たちのことはあなたがいるので安心してここにも出てこられるし、頼みますということをいつも言われています。「安心して」という言葉がいちばんなのではないかと思いました。

(木村委員)

案2が良いと思います。先ほど委員長がこの計画は概念や理念ではなく、具体的な計画に落とし込まなければいけないと言われたのを思い出しました。そうすると、この案の表現がいちばん具体的にイメージしやすいなと思いました。

(太田委員)

案2が良いと思います。社協の理念、「私たち一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる福祉のまちづくり」という言葉が大好きです。障がいがある人もない人も、地域で共にはぐくみ支え合う共生社会の実現。最初は案1がいいかと思ったのですが、「いきいきと暮らせるまち」という言葉で案2が良いと思いました。障がい者の会でも、身体障がい者だけでもどんどん減っています。3人今年度に亡くなられました。医療的ケア児とか発達障害の子も幅広く団体に入ってもらえるなら、また若い人が増えて、障がいと全く違うものだから壁をなかなか崩せない。そういう人たちだけで集まっていればいいが、多様性といってもなかなかその壁を壊すのは難しく、団体もまたいろいろな問題が出てきて、工夫しながら鈴木さんたちと一緒にすすめています。ストレートにわかりやすいのは案2だと思います。

(法月委員)

案2が良いと思います。案1は温かいと思いましたが、他人事のような感じがしました。私はよくばりなので、シンプルよりも盛り上がった案2でいきたいです。もともと団体スポーツが好きなので、オープンなイメージで案2です。

(安ノ井委員)

案2が良いと思います。障がいに関わる仕事をしているので、そういう点では「一人一人が輝く」とか「自分らしく」という言葉に、個性や多様性ということから考えるとそれが一番大事かなと感じています。ただ、さきほどのアンケートでもこの清須が非常に出生数が多い、出産率が全国平均より高いということから考えると、これからは「みんなではぐくむ」、子どものことを大事に考えないといけないなど、結局迷ったあげくに案2が良いと思いました。

(武島委員)

案2が良いと思います。私は「自分らしく」というこの言葉、ワンフレーズが大好きなんです。皆さまの意見をお聞きしたのと、今後、成果、実施計画になった時に「自分らしく」とか「支え合う」というのは落とし込むのに難しい。それに対して「安心」という言葉、安心な計画を実施することで市民のみんなが「安心」できることを考えて、この言葉が入っている案2が良いのではないかと思います。

(岩田委員)

この3つのどれかと言われてなかなか難しいと思っています。ひとつひとつの言葉を区切ってワンフレーズを考えたところで、この地域福祉計画という計画の性質上、全体的な支え合いの気持ちをはぐくんでいこうと思うと「みんなで支え合う」ところが、ボランティアのこと、町内会の数、子ども会のことも含めて支え合う気持ちを皆さんがいま一度思い起こしていくという意味ではこの程度でいいなと思いますが、その後の「一人一人が輝くまち」がしっくり来ない。逆に「いきいきと暮らせるまち」のほうが全体的なところでいいです。「はぐくむ」が少し低年齢を思い起こしてしまい、地域福祉は全面で全世代と考えるとそういうところはあまりこぼさない方がいいなと思い、どれかというのが難しいです。

この3つから選ばなければならないということであれば、再度ご検討いただけたら。皆さんのご意見を聞いていただいた上で、全部いいと思っていられっしゃるわけではなくこの1フレーズがいいとご意見がありましたので、またご検討いただいてもいいと思いました。共生社会の構想をしていかなければいけないことを考えて、上手に良いとこ取りして、理念、スローガンとしていいと、皆さんが賛同できる内容がいいと思いました。

(川島委員長)

多数決ではなく、それぞれどこが大事と思われているかのご意見もお聞きできたと思います。今、岩田委員がいわれたようにもう一度見直すこともしかしたらあるのかと思いますので、ここは事務局にお返しいたしますので、再度ご検討いただければと思っています。あまり長すぎると良くないというのも確かにその通りだと思いますので、全部入れて長く2行に渡るといったことにならないようにお願いします。

その他、骨子案についてのご意見はありませんか。これからもまだ皆さまにご検討いただかなければいけないところではありますが、よろしくお願ひします。

それでは、議事（２）「その他」について事務局から説明をお願いします  
（事務局）

【資料について説明】

（川島委員長）

ただいまの説明について、ご意見ご質問はありますか。

次年度は４回ほど策定委員会を開催いたしますが、本日晒されたものは中身がまだない状態です。次回以降、だんだん中身が詰まってきて、これでいいのかということをご審議いただくよいよ本番ということになります。引き続き皆さまのご意見をいただきながら、より良い清須ならでは、これが清須市の計画だとしっかり打ちだせるような計画づくりをしていきたいと思っています。ご協力よろしくをお願いします。

本日の議事は全て終了しました。進行を事務局にお返しします。

４ 閉会

（事務局）

本日いただきました貴重なご意見等、今後の策定につなげていきたいと考えています。本日はまことにありがとうございました。

これをもちまして、令和５年度第２回清須市地域福祉計画策定委員会を終了します。ありがとうございました。

会議の経過を記録して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 吉田正恵

署名委員 佐藤あづ子